

8月に総動員伝道と協力して行った「東海道五十三次 ウォーク・ウィズ・ジーザス」が無事に完了しました。お祈り、ご献金、また宿泊、集会などご協力いただいた皆さまに感謝します。

参加者で、全行程を歩き通した一人の杉本先生のおかしを紹介します。

# 五十三次を歩き通して

8月28日 滋賀県大津バプテスト教会での証しから

杉本 常雄（日本キリスト教団淀川教会 牧師）



歩き通した7人

ウォーク・ウィズ・ジーザス。8月3日に東京の日本橋を出て、ついに明日、最終日を迎えます。一日20キロの道のりを歩き、出会った一人びとりにトラクトを手渡し、語りかけました。全身を貫く疲れと、足腰の痛みを覚えていきます。苦しかったです。また、楽しかったです。主イエスさまと共に歩ませていただく幸い、主イエスさまに導いていただいく平安に満ちた旅でした。目指したゴールを前にして、「そのゴールが遠ざかってほしい、もっと歩きたい」という不思議な思いです。

## ●軍隊のような一日

一日のスケジュールは、すさまじいものでした。早朝4時半起床。床を片づけて5時から10分間のデボーション、20分で朝食をすませ、5時半には出発して前日の到着地点へ移動し、6時から歩き始めます。規律正し

い、軍隊のような生活でした。手にする武器は神のことばと福音トラクト。私たちは人の命を殺める兵ではなく、悪霊を撃ち人を生かす神の兵士でした。テレビも新聞も見られる機会はなく、一日は、労働（トラクト配布）と祈りと賛美で満ちていました。あたかも修道院の生活です。しかし世から隔絶されて一人静かに山や森にこもるのではなく、むしろ積極的に世へ出かけて行き、人々に語りかけて祈る生活です。それは主イエスさまが、ひとり山にこもり続けることなく、むしろ世へと出かけられたことに倣うものです。

## ●祈りつつトラクト配布

町々村々で、トラクトを道行く人々に手渡し、語りかけました。受け取った一人一人を、主がと



らえてくださるように祈りました。人気がないところでは、トラクトを各戸に投函しました。主がその家を祝福してくださいるように、そして家族の誰かが福音を知り、近所の教会へ行く思いが起されるよう願いました。伝道は主のわざです。人をとらえ、心開かせ、悔い改めの思いを起させ、救いへと導くのは主ご自身です。私たちは、ただ自分自身を主の前に差し出して働く者です。

## ●社寺仏閣は多く、教会は少ない

各地の教会に受け入れていただき感謝しています。その支えがなければ、歩き通せなかったでしょう。私たちを覚えて祈り支えてくださったお一人びとも、この旅を歩まれたのです。私たちと諸教会の兄弟姉妹が主にあつて一つとされている、そこにキリストの体が存在しています。神が御子の肉を裂き血を流して贖いとられた教会が、そこにあります。

訪問させていただいた諸教会は、困難な伝道の諸課題と取り組み、主のわざに励んでおられました。偶像や迷信との戦いがありました。頻繁に見られる

社寺仏閣の多さ、それに比して教会の少なさに、また家々の玄関に据え付けられた異教の風習に、憤りを覚ええました。本当に拜すべきお方を知らずに滅んでいく魂を憐れみ、主を宣べ伝えるいかねばならないことを学びました。

## ●新しい旅が始まる

この旅は、明日で終わります。三条大橋というゴールは、どんなに遠ざかってくれと願っても、願いは叶いません。しかし私たちは、その大橋からそれぞれの所へ散らされていきます。そこから新しいウォーク・ウィズ・ジーザスが始まります。この旅が主イエスさまによって始められ、今主によって閉じられようとしています。新しい旅もその主によって始められるのです。

ひき続き主に従っていきましょう。はじめてであり終わりであるお方の恵みのご計画の中で、この小さき器が、一時主のご用のために用いられる。こんな光栄なことはありません。ハレルヤ、主を賛美し、感謝します。



杉本牧師夫妻